

## 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のキンチャクガニ (十脚目：短尾下目：オウギガニ科)

是枝伶旺<sup>1</sup>・佐藤智水<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

<sup>2</sup> 〒 890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院農林水産学研究科

### はじめに

キンチャクガニ *Lybia tessellata* (Latreille in Milbert, 1812) は甲背面に赤色域と淡色域からなる石垣模様、赤褐色の胸脚には黒褐色の縞模様が特徴的なオウギガニ科の小さなカニであり(酒井, 1976; 武田, 1982; 峰水, 2000), 日本国内においては伊豆諸島, 小笠原諸島, 和歌山県, およびトカラ列島以南の琉球列島から記録されている(酒井, 1976; 武田, 1982; 奥谷, 1994; 平林, 2015; Sasaki, 2019). 本種は鉗脚でイソギンチャクを挟んで保持する生態が知られており, 鉗脚の咬合部は小歯がカエシ状に並ぶことでイソギンチャクを握ることに特化した形態となっているが, 鉗脚を犠牲にしてイソギンチャクを保持する理由については十分に明らかとなっていない(柳・岩尾, 2012).

2024年1月13日に九州南部の鹿児島県薩摩半島南岸から4個体のキンチャクガニが採集された。また, 2022-2023年に屋久島と平島の沿岸における本種の生息が水中写真から確認された。薩摩半島産の個体は, キンチャクガニの九州沿岸からの初記録と考えられたためここに報告すると共に, 文献ベースでの知見に乏しい本種の鹿児島県における出現状況を補完する目的で, 各水中写真についても紹介する。

### 材料と方法

得られた標本は70%エタノールで固定した。この際, 固定前に海水中で生鮮時の色彩を撮影し

た。本研究に用いた観察標本およびカラー写真は鹿児島大学総合研究博物館(KAUM: The Kagoshima University Museum)に保管されている。

### 結果

**オウギガニ科 Xanthidae** MacLeay, 1838

**キンチャクガニ属 *Lybia*** H. Milne Edwards, 1834

**キンチャクガニ *Lybia tessellata*** (Latreille in Milbert, 1812)

(Figs. 1, 2B)

**検討標本** 4個体(甲幅7.6-8.3 mm)。全て鹿児島県南九州市番所鼻自然公園地先で採集: KAUM-AT. 3309, 甲幅7.9 mm, KAUM-AT. 3310, 甲長7.9 mm, KAUM-AT. 3311, 甲長7.6 mm, KAUM-AT. 3312, 甲長8.3 mm, 水深0 m, 2024年1月13日, 是枝伶旺。

**同定** 検討標本は甲が概ね六角形である, 領域が幅広い2葉からなる, 前側縁は短く, その後端部に1葉がある, 甲背面には黒色で縁取られた赤と淡褐色の石垣状模様をもつ, および歩脚が細長く, 長毛を疎らにもち, 各節に数本の細い黒色帯をもつことが酒井(1976)の示したキンチャクガニの形態的特徴に一致し, 本種に同定された。

**分布** キンチャクガニはインド・西太平洋に分布し(酒井, 1976; 加藤・奥野, 1994; 川本・奥野, 2003; Mendoza and Ng, 2011), 日本においては少なくとも伊豆諸島(峰水, 2000) [伊豆大

Koreeda, R. and M. C. Sato. 2024. First Kyushu records of *Lybia tessellata* (Decapoda: Brachyura: Xanthidae) from Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 295-298.

✉ RK: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24, Korimoto, Kagoshima, 890-0065, Japan (email: e-mail: k4920583@kadai.jp).

Received: 18 March 2025; published online: 20 March 2025; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_051/051-062.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-062.pdf)

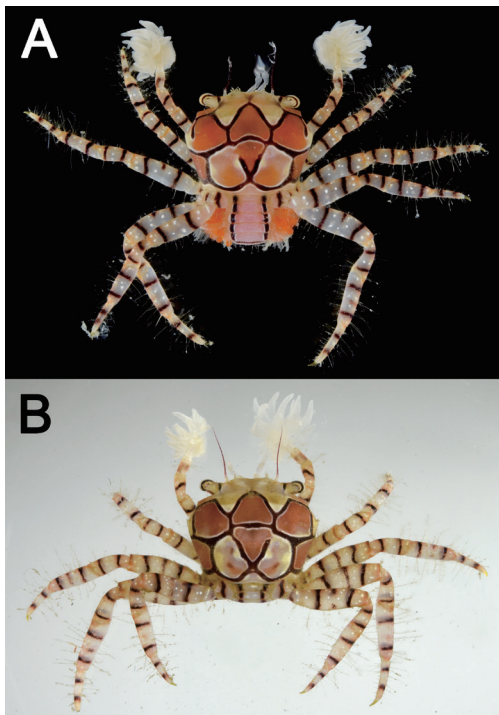


Fig. 1. Fresh specimens of *Lybia tessellata* (A: KAUM-AT. 3310, 7.9 mm CL; B: KAUM-AT. 3311, 7.6 mm CL) from Satsuma Peninsula, Kyushu, Japan.

島（鈴木・倉田, 1967; 酒井, 1976; 武田, 1982; 三宅, 1983; 伊藤, 2001; 加藤・奥野, 2001), 八丈島 (Takeda et al., 1976; 加藤・奥野, 2001)], 小笠原諸島 (酒井, 1976; 三宅, 1983) [兄島 (柳・岩尾, 2012; Takeda and Komatsu, 2023), 姉島沖 (Takeda and Komatsu, 2023), 父島 (Takeda and Komatsu, 2023), 媒島 (東京都小笠原支庁, 2017), 嫁島 (東京都小笠原支庁, 2017)], 和歌山県鏑浦 (平林, 2015), 鹿児島県本土 (本研究), 屋久島 (本研究), およびトカラ列島以南の南西諸島 (Sasaki, 2019) から記録があり, 少なくとも口之島 (Sasaki, 2019), 宝島 (Sasaki, 2019), 平島 (本研究), 奄美群島 (酒井, 1967; 三宅, 1983) [奄美大島 (武田, 1982; Sasaki, 2019), 加計呂麻島 (奥谷, 1994; Sasaki, 2019), 与論島 (酒井, 1967; 酒井, 1976; Sasaki, 2019)], 沖縄諸島 [久米島 (川本・奥野, 2003; Sasaki, 2019), 阿嘉島 (Nomura et al., 1996; 柳・岩尾, 2012; Sasaki, 2019), 座間味島 (Nomura et al., 1996; Sasaki, 2019), 粟国島 (久保田ほか, 2000)], 宮古諸島 [宮

古島 (横田・津山, 1995), 下地島 (藤田, 2018)], 八重山諸島 (三宅, 1983) [黒島 (三宅, 1983; 伊藤, 2009), 石垣島 (酒井, 1976), 竹富島 (酒井, 1976)] を含む琉球列島 (奥谷, 1994; 峰水, 2000) から記録されている. 酒井 (1967) は本種が「沖縄」に普通に分布しているとしている.

**採集時の状況** 検討標本は薩摩半島南岸に位置する南九州市番所鼻自然公園地先に広がる岩礁性海岸の潮間帯下部において, 岩盤沿いに直径 5 cm ほどから掌大のサンゴ礫が 3–4 層ほど堆積した場所の, サンゴ片の下層に形成された空隙から採集された (Fig. 2A, B). 採集時は夜間の大潮にあたり, キンチャクガニは完全に干出したサンゴ片の空隙から採集されたが, 同所は 1 年を通して通常干出することの少ない環境である. サンゴ片を徒手で除去すると計 4 個体が観察された. いずれも動きは緩慢であったが, 第 1 著者が採集を試みると歩脚を用いてサンゴ片にしがみ付き, イソギンチャク類を持った鉗脚を指に押し当てて抵抗した.

屋久島においては一湊地先の水深 10 m 付近で 2022 年 3 月 20 日 (Fig. 2C), 平島においては同島南部地先の水深 10 m 付近で 2023 年 8 月 26 日に (Fig. 2D), その特徴的な色彩から本種に同定される個体が第 2 著者により撮影された.

**備考** キンチャクガニの記録は上述の通りであり, 本研究における文献調査では和歌山県とトカラ列島の中間海域における本種の出現を保証する確かな報告は発見できなかった. Sasaki (2019) はキンチャクガニに関する文献を広く扱い, 本種の国内における分布にトカラ列島の口之島と宝島における記録を含めた. 口之島における記録は千葉県立中央博物館の資料データベースからの引用と考えられ (シノニムリスト中における “Chiba Prefectural Museum, 2012”), 同館には 1998 年 5 月にトカラ列島口之島港で採集された CMNH-ZC 0005562 がキンチャクガニ *Lybia tessellata* として登録されていることがデータベース上から確認された (2025 年 3 月 6 日時点). 宝島における記録は国立科学博物館の資料データベースからの引用と考えられ (シノニムリスト中における “National

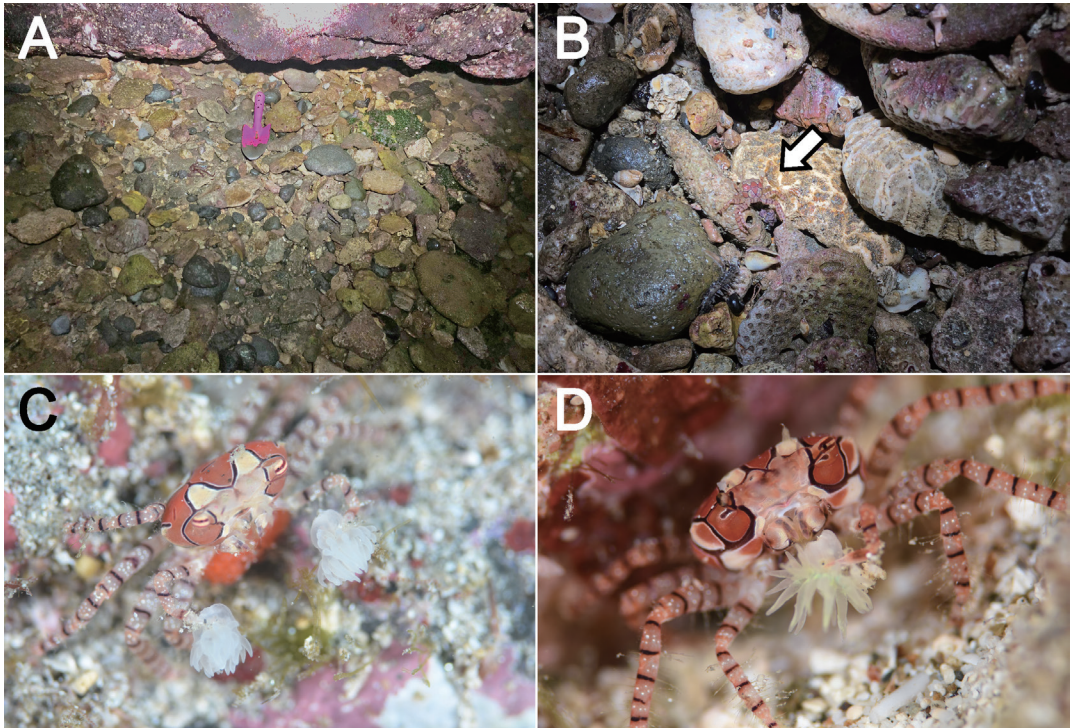


Fig. 2. Habitat (A, B) of *Lybia tessellata* (arrow) in Satsuma Peninsula, Kyushu, and underwater photographs of *L. tessellata* from Yaku-shima island, Osumi Islands (C) and Taira-jima island, Tokara Islands (D), Japan.

Museum of Nature and Science, Tokyo, 2008”), 同館には1998年5月に宝島で採集されたNSMT-Cr 12441（雄2個体）がキンチャクガニ *Libia tessellata* として登録されていることがデータベース上から確認された（2025年3月6日時点）。したがって、Sasaki (2019) が含めた口之島と宝島からの記録は標本データベース上のウェブ引用に基づくと考えられる。本種はその特徴的な色彩から誤同定の可能性は低いと考えられるが、標本に対応する同定結果は不変ではないことから引用時の同定状況が不明であるため、本研究では実質的にSasaki (2019) がこれらの地域から本種を記録したもののみとした。

本種の記録は分布の項に示した通りであり、本研究で得られた薩摩半島産の個体がキンチャクガニの九州沿岸からの初記録であると考えられる。また、水中写真に基づき屋久島と平島における本種の生息も確認された。薩摩半島産の2個体（KAUM-AT. 3310, 3311）は共に冬季に採集された抱卵個体であり、九州沿岸における再生産の可能

性が示唆される。

## 謝辞

本報を取りまとめるにあたり、鹿児島県の久木田直斗氏、鹿児島大学連合農学研究科の古橋龍星氏、鹿児島大学農林水産学研究科の金井聖也氏、鹿児島大学水産学部の前田知範氏には採集調査にご協力頂いた。屋久島ダイビングサービスもりとうみの原崎 森氏には屋久島における水中写真の撮影にご協力頂いた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の本村浩之博士と大西聡子氏には標本の登録にご協力頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

## 引用文献

- 平林 勲. 2015. キンチャクガニが挟むイソギンチャクの正体：錆浦における知見. マリンパビリオン, 44: 46.
- 藤田喜久. 2018. 標本を基にした宮古諸島の十脚甲殻類記録. 宮古島市総合博物館紀要, 22: 77-92.
- 伊藤勝敏. 2001. 伊豆の海 海中大図鑑. データハウス, 東京. 377 pp.

- 伊藤勝敏. 2009. 沖縄の海 海中大図鑑. データハウス, 東京. 457 pp.
- 加藤昌一・奥野淳児. 2001. エビ・カニガイドブックー伊豆諸島八丈島の手からー. TBSブリタニカ, 東京. 157 pp.
- 川本剛志・奥野淳児. 2003. エビ・カニガイドブック2 沖縄・久米島の手から. 阪急コミュニケーションズ, 東京. 173 pp.
- 久保田 信・中口和光・郷 秋雄. 2000. 豊潮丸での南西諸島産ヒドロ虫類相の調査, くらしお, 19: 18–23.
- Mendoza, J.C.E. and P.K.L. Ng. 2011. The Polydectinae Dana, 1851, of the Philippines, with description of a new genus for *Lybia hatagumoana* Sakai, 1961 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Xanthidae). Zootaxa, 3052: 51–61.
- 三宅定祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑(II). 保育社, 大阪. viii + 277pp.
- 峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド 海の甲殻類. 文一総合出版, 東京. 344 pp.
- Nomura, K., S. Nagai, A. Asakura and T. Komai, 1996. A preliminary list of shallow water decapod Crustacea in the Kerama Group, the Ryukyu Archipelago. Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 51(2): 7–21.
- 奥谷喬司. 1994. 山溪フィールドブックス9 サンゴ礁の生きもの. 山と溪谷社, 東京. 319 pp.
- 酒井 恒. 1967. 日本産甲殻類に関する話題 III. 甲殻類の研究, 3: 68–83.
- 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 講談社, 東京. 461 pp.
- Sasaki, J. 2019. The Species List of Decapoda, Euphausiacea, and Stomatopoda, all of the World. Version. 03-3.1. — The Worldwide Species List of Decapoda, Euphausiacea and Stomatopoda —. Local Independent Administrative Agency Hokkaido Research Organization, Resources Management and Enhancement Division, (Dôsôken) Abashiri Fisheries Research Institute, Fisheries Research Department, Abashiri. 14644 pp.
- 鈴木克美・倉田洋二. 1967. 伊豆大島及びその付近のカニについて. 甲殻類の研究, 3: 86–104.
- 武田正倫. 1982. 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館, 東京. 284 pp.
- Takeda, M. and H. Komatsu. 2023. Updated Checklist of the Crabs (Crustacea: Decapoda: Brachyura) from the Sea around the Ogasawara Islands, Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, 49 (4): 161–178.
- Takeda, M., M Miki, M. Asai, and K. Suzuki. 1976. *Halicarcinus orientalis* Sakai (Crustacea: Hymenomatidae) associated with *Ophiocoma brevipes* Peters (Ophiuroidea: Ophiocomidae) from Hochijo Island. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, 2 (1): 33–38.
- 東京都小笠原支庁. 2017. 平成 28 年度小笠原諸島海域生態調査委託報告書 ([https://ogasawara-info.jp/pdf/press\\_report/h28-1.pdf](https://ogasawara-info.jp/pdf/press_report/h28-1.pdf)) (31 Jan. 2024)
- 柳 研介・岩尾研二. 2012. キンチャクガニ *Lybia tessellata* が保持するイソギンチャクの謎. みどりいし, 23: 31–36.
- 横田雅臣・津山純一. 1995. クラブ&シュリンプ・ウォッチング. I.O.P. Diving News, 6 (5): 8.